

# 国際社会学部

## 中山裕美

Yumi Nakayama

国際関係コース／人の移動するところはどこでも  
国際政治学／移民・難民ガバナンス



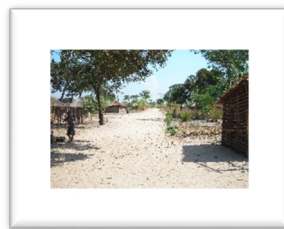
© UNHCR/L. Astrom/1989

### 移民・難民ガバナンスとは

人類の歴史はまさに移動の歴史そのものですが、近代以降国家という概念が登場したことで、移動する人々を取り巻く環境は大きく変化しました。具体的には、国民とよばれる人々とそうではない人々の区別が生まれ、国境を越えて移動する人々は、国家の「内」と「外」という全く異なる空間を往来することになったのです。そして20世紀半ば以降、移動する人々は主に移動の理由によって移民と難民とに区別されるようになり、国際政治の中では異なる法制度体系のもとで扱われてきました。移民・難民ガバナンスとは、人々の移動の直接的な移動の原因や移動の手段、移動の規模、移動の経路などがさまざまに変化する中で付随して生じた新たな問題に対処するために国家・国際／地域機構・NGO・民間企業といった様々なアクターによって複雑に編まれた解決のために取り組みを指しています。

### 研究紹介

アフリカにおける地域的な難民ガバナンスから研究をスタートしましたが、現在では移民ガバナンスも含めて、特定の地域に限らず、研究をしています。例えば国家の役割に着目すると、移動する人々の出身国、経由国、受け入れ国、そして直接の問題の当事国で



はないけれどドナー国として関係を持つ国など、様々な顔があり、それぞれに優先すべき政策や期待されている役割が異なります。そして国際／地域機構はそうした異なる立場にある国家の間を調整する役割を期待されています。一筋縄ではいかない国家間の駆け引きや国家と国際／地域機構の関係性を、国際機関の議事録や決議などの公的文書、資金の流れを示した報告書など、さまざまな資料を用いて明らかにすることを目指しています。



### 担当授業

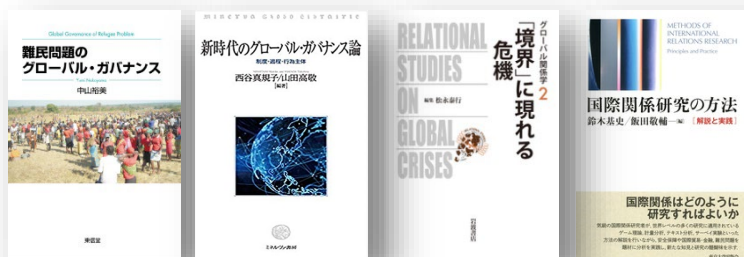
- 国際政治理論
- 地域主義比較分析
- グローバルガバナンス論と難民・移民問題
- 国際協調論（ゼミ）

### 関連する分野

- 政治学
- 国際社会学
- 国際法

### 出版物

- 『難民問題のグローバル・ガバナンス』（単著）
- 『新時代のグローバル・ガバナンス論』（分担執筆）
- 『グローバル関係学2「境界」に現れる危機』（分担執筆）
- 『国際関係研究の方法』（分担執筆・共著）



# 国際社会学部

## 国際協調論 ゼミ

### どのようなゼミか

グローバル化が叫ばれて久しい今日、国際社会が一丸となってグローバルな危機に取り組まなければならないことは改めて問うまでもありません。それにもかかわらず、危機に対して国際社会が十分な解決策が講じられていないことの原因はどこにあるのでしょうか。そしてどうすれば解決に向けた一歩を踏み出すことができるのでしょうか。本ゼミは、国際社会が直面するグローバルイシューについて、マクロな視点から課題を特定し、実証的な研究手法に基づいて、原因の究明と解決の方途を考察する能力を習得するゼミです。

国際関係論において核となるのは国家間関係ですが、国家間には様々な力学が働くほか、利害が一致しないなど、国家が協力するためには多くの障害を乗り越えなければなりません。さらに、グローバルイシューの解決に向けては、国家だけでなく、国際機関や地域機構、企業やNGOといった多様な非国家主体の関わりや、それぞれの地域の文脈に即した形で解決のための試みが進められることが強く求められます。

本ゼミでは、伝統的な国際関係トピックに限定することなく、移民・難民、貧困、人権、環境、疾病、その他多岐に渡るテーマについて、国家を基軸とした多様なアクターによる協調の問題点を探求し、それを踏まえたうえで解決策を考察していきます。学生の皆さん一人ひとりが関心を持つ分野についての理解を深め、問題を発見し、その原因を究明し、解決方法を考察することは当然のことながら、専攻地域以外の状況と自身の専攻地域の状況を比較し事象を相対化して捉える眼差しを養う機会となるよう、互いに切磋琢磨しながら学習を進めてほしいと考えています。

(国際関係コース 中山裕美ゼミ)

このゼミには幅広い地域、多様な興味を持った学生が所属しています。ゼミでは自分の専攻地域や興味のある分野のことを扱う日もあれば、全く違うことを扱う日もあります。しかし、国際政治学で扱う様々なグローバルイシューはそれぞれが一見かけ離れているように見えて共通する部分がありつながっていて、あるグローバルイシューに対する分析の手法や視点を他のものに応用できることはよくあることです。ゼミでの議論を通し、専攻地域が違い興味のある分野も違う学生から自分にはない視点を得ることができ、幅広い見識を広めることができます。それぞれが違う知識を持ち寄って議論を交わすのはとても楽しいです。

先生は卒論の時期になると人が変わるとよくおっしゃっています。実際に卒論執筆には厳しい指導、添削が入るようです。ですが、それは言い換えれば、もう一つ特徴として挙げられる先生の「面倒見」の良さとも言えるのではないのでしょうか。



### 卒論

- 先住民族の権利に関する国連宣言の成立：非国家・非先住民族アクターの貢献に着目して
- フィンランドの領土拡張運動とリアリズム—1939年から1941年における対外政策決定過程の分析を通じて—
- ヨーロッパにおけるロマの待遇改善に向けたガバナンスの停滞—予算とNGOの観点から—
- ドイツの環境分野における成熟したマルチステークホルダー・プロセスの成立過程—政府・市民・環境団体に焦点を当てて—

### おススメの本

- 緒方貞子『私の仕事 国連難民高等弁務官の10年と平和の構築』